■今月の特選句

2011 年 12 月号

神官の祝詞早口七五三

白井道義

畏れ多くもかしこくも、神官様を批判した勇気に意外性があり、滑稽です。「この月はかきいれどきで超多忙　早口言葉の練習もして」。

渋柿や即戦力の問はる世に

宇井偉郎

俺は昔から渋柿やってんだ。昨日今日の時世の風潮を押し付けるなと、柿はますます渋い顔に。「焼酎にしばし溺れて甘柿に　ハローワークでパソコン習ふ」。

本の虫紙魚に上座を奪はるる

ひがし愛

虫と人間を対等に扱ったから、滑稽句になったのです。「肝心な箇所を食はれてしまひたる　自然にできた伏せ字の艶本」。

常連の柿盗人や懺悔室

守屋八郎

懺悔室という神聖なものと、柿泥棒という俗の極みの取り合わせの意外性に手柄。「先頃は西瓜泥棒した奴が　性懲もなく俯いてゐる」。

衣被素直に脱がぬやつもゐて

田村米生

里芋を擬人化して女人扱い。剥き難いを脱がせ難いとは、里芋というより「里妹」ですね。「命名はおそらく女好きの奴　恋の手管でついに裸に」。

いが栗のはじけたやうな付け睫毛

笠　政人

海外の若者にまでバカ受けの日本のギャルのファッション。その象徴の「特大つけ睫」を取り入れて、時代の滑稽を切り取った秀句。「本物の栗が吃驚するほどに　燐寸の棒を何本も載せ」。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

きっかけはおでんの中で何が好き　石川節子
・・・結局選んだ蒟蒻男

サランラップより松茸を薄く切り　伊藤浩睦
・・・薄さ誇張も俳人のわざ

おじさんの胸をくすぐる赤い羽根　柳　紅生
・・・その細指がなんとも嬉し

弟にちがふ父親七五三　越前春生
・・・国際色も地球家族に

誰よりもことわり上手すすきの手　金澤　健
・・・おいでおいでも結構ですも

コップまで口をむかへにやる新酒　小林英昭
・・・新走りてふ賓客の来て

秋草に学ぶ清貧なんちやつて　猿渡　仁
・・・ベンツ横付け手帳取り出す

手袋の道を誤り幼な指　高橋素子
・・・人生の道誤るべからず

思考回路の扉閉じ風邪の床　澤田蔦恵
・・・扉開けてもさほど変らじ

小さき鼻大きな鼻も風邪ひきぬ　下嶋四万歩
・・・マイコプラズマウイルス怖い

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

新米のあきたこまちに持て成さる　飛田正勝

・・・肌の張りよし色艶もまた

神留守の忍びし恋のおおつぴら　山本あかね

・・・年中神の留守てふ組も

神棚に特価の値札神の留守　広瀬雅幸

・・・赤文字で書く期間限定

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

【佳作】	往還も熊の領域肌寒し	青山桂一
	蘆思ふ悪ではなくて良たらむ	青山桂一
	蹌踉る老犬なるに天高く	青山桂一
	水は飲むべく洪水は逃げるべし	秋月裕子
【佳作】	日溜りを秋の蜥蜴と奪ひ合ふ	秋月裕子
	カフェテラス蜜柑分け合ひ長っ尻	秋月裕子
	秋深し深みにはまり詐欺と知る	麻生やよひ
	林檎食むイヴのごと唆されて	麻生やよひ
【佳作】	地域みなスタッフキャスト村芝居	麻生やよひ
【佳作】	物置の湯たんぽ日の目みることに	足立淑子
	日本もギリシャも辛い十二月	足立淑子
	夢ばかり追って十二月になった	足立淑子
	天高くカロリーゼロの一気飲み	有冨洋二
	過疎村のところかまわず柿たわわ	有冨洋二
【佳作】	新酒どき主治医の下す禁酒法	有冨洋二
【佳作】	目に物を言はす二人のマスクかな	有吉堅二
	見目のよき柚子の寄り来る湯舟かな	有吉堅二
	傷口を舐め合つてゐるおでん酒	有吉堅二
【佳作】	我がポストいつも空っぽ空っ風	安藤淑子
	霧籠めて夫の大声天の声	安藤淑子
	天高し薬七種に助けられ	安藤淑子
【佳作】	おでん屋の表に待たす冬の月	飯塚ひろし
	職無しが焚火ぼうぼう育てをり	飯塚ひろし
	競艇が休みの今日は浮寝鳥	飯塚ひろし
【佳作】	さびしくて朝帰りの案山子かな	井口夏子
	コスモスのしきりに揺れて池に鳥	井口夏子
	木枯らしがきそうよ女仁王立ち	井口夏子
	良妻賢母時には阿修羅女神輿	池田亮二
【佳作】	冥途ツアーは往復十億年ぞ秋彼岸	池田亮二

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	冬銀河重力忘れ遊泳す	石川節子
	冬蜂の律儀に生きて死に上手	板倉肱泉
	神様のみな酒好きで里神楽	板倉肱泉
【佳作】	名を知らぬ茸しめぢの匂ひして	板倉肱泉
【佳作】	したたかや鍋になりても熊の肉	伊地知寛
	寄鍋や豚と魚のカーニバル	伊地知寛
	煤逃げの娘の家で汗をかき	伊地知寛
【佳作】	奥山に紅葉踏み分け洗い熊	伊藤浩睦
	冷え腹は柿の祟りか年なのか	伊藤浩睦
	体育の日ルームランナー置きしまま	稲沢進一
【佳作】	挨拶のひとつしての青蜜柑	稲沢進一
	長き夜や犬は一日二食にて	稲沢進一
【佳作】	神無月知りつつ祈願ボケ封じ	井野ひろみ
	芋の蔓戦後生まれに旨きもの	井野ひろみ
	スカートにスカーフおしゃれ案山子立つ	井野ひろみ
【佳作】	海鼠切る海鼠の秘密みつからぬ	今城夏枝
	餡パンにゆるりと座る冬の蠅	今城夏枝
	石蕗の花寺の隅々明るくし	今城夏枝
【佳作】	年の暮れマンホールの蓋踏むまいぞ	宇井偉郎
	煤逃や都県境を越えてなほ	宇井偉郎
	コスモスは気儘な風に逆はず	宇佐美徹郎
	自家発電川紅葉にて滞り	宇佐美徹郎
【佳作】	籠りたる一年吐き出す除夜の鐘	宇佐美徹郎
	賽銭箱改めてゐる年の暮	氏家頼一
【佳作】	煤逃や居ては邪魔だと言はれては	氏家頼一
	「回文」やタケヤブヤケタ夜番小屋	氏家頼一
	二人して不器用なれど障子貼る	越前春生
【佳作】	秋刀魚焼き恋の兆しの口喧嘩	越前春生
【佳作】	三の酉おかめの頬の少し痩け	奥脇弘久
	ガラス窓背後に映る枯芙蓉	奥脇弘久
	冬に入る南瓜の出番もう一度	奥脇弘久

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	いちじくを啄む鳥の便秘症	笠　政人
	高貴なる紫衣ごと焼かる秋茄子	笠　政人
【佳作】	天窓にはまり込んだる望の月	加藤澄子
	バッハ聴く雨音バックの秋の夜	加藤澄子
	パラグライダーの眺めはいかが紅葉山	加藤澄子
	その時は拾ひし木の実邪魔になる	加藤　賢
【佳作】	採血に眼を背けゐて櫨紅葉	加藤　賢
	松茸と頷き合うてすまし汁	加藤　賢
【佳作】	方便と嘘を割り切り愁思かな	金澤　健
	生まじめに香具師が嘘云ふ秋祭	金澤　健
	生きる事身につまさるる残る虫	川島智子
【佳作】	榠樝の実舅の頭頑固なり	川島智子
	いとほしや白髪ばかりの木の葉髪	川島智子
	腹の中照らされている星月夜	久我正明
【佳作】	隠しても証拠はここにゐのこづち	久我正明
	牛の乳撫でられているねこじゃらし	久我正明
	豚鼻の落し蓋せる秋の鯖	工藤泰子
【佳作】	灸花付けてなりたるピノッキオ	工藤泰子
	案山子立つ蒜山焼きそば公認店	工藤泰子
	モナリザも微笑み返す小六月	倉方　稔
【佳作】	悶着を丸めてしまふ玉子酒	倉方　稔
	稲掛けに遊べや遊べ雀ども	倉方　稔
	残る虫今夜も貴女と付き合ふよ	黒田忠一
【佳作】	合唱が独唱となり残る虫	黒田忠一
【佳作】	寅さんのおらぬこの世の更に秋	小杉　隆
	盆経の僧の目白き膝小僧	小杉　隆
	コスモスや女生徒だちの舞ふワルツ	小杉　隆
【佳作】	下品でもかぶりつくのが西瓜です	小林英昭
	赤い羽根ちよつとかはいい娘の前へ	小林英昭
【佳作】	山里に性善説の無人店	齋藤八兵衛

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	男料理レシピ片手にさしすせそ	齋藤八兵衛
	なつかしむ妻へボーナス手渡し日	齋藤八兵衛
【佳作】	釣瓶なき釣瓶落しの一句かな	酒井鹿洋
	神主の祝詞冴えなき神無月	酒井鹿洋
	天国と地獄煽るや運動会	酒井鹿洋
【佳作】	小用に物つまみ出す厚着かな	佐藤古城
	一切が聞こえぬ振りの炉辺の爺	佐藤古城
	身の心棒ぬき捨て老いの冬籠もり	佐藤古城
	芭蕉忌の次々ありて冬に入る	佐野萬里子
	松手入して風通しよくなれり	佐野萬里子
【佳作】	庭師来て猫の糞床見つけたる	佐野萬里子
【佳作】	ゴメンネゴメンネハーイと切られ秋電話	猿渡　仁
	風湧きてたゆたの鴨ら錐揉に	猿渡　仁
【佳作】	何かいる木枯の吹くあの辺り	澤田蔦恵
	恋心色にかへたら秋の山	澤田蔦恵
	秋の天覗惑はす宇宙ゴミ	柴田真一
	友だより昔級長木瓜好み	柴田真一
【佳作】	簗かけは今土沙つまり休流中	柴田真一
【佳作】	やんはりと叱られてゐるおでんかな	清水呑舟
	つまづいてばかりの余生木の実打つ	清水呑舟
	露の夜や妻はつらつとボランティア	清水呑舟
【佳作】	奥方もこらへかねたる大嘘	下嶋四万歩
	鮟鱇の肝をつぶしてしまひけり	下嶋四万歩
【佳作】	離れみる女の手腕秋バーゲン	壽命秀次
	忙しや新酒は敵に友になり	壽命秀次
	一位よりかけっこ褒めらる転んだ子	壽命秀次
【佳作】	部屋といふ部屋にラジオや文化の日	白井道義
	赤い羽根付けて入りし焼鳥屋	白井道義
【佳作】	大根も白菜もカットされスーパーは寒い	鈴木和枝
	病衣に釦がないつまらない時間	鈴木和枝
	一部始終の一部でいいうれしかった事	鈴木和枝

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	秋の暮木の葉隠れて小鳥鳴く	鈴木哲也
	身に入むや小さなカバンポツリとし	鈴木哲也
【佳作】	星月夜一台残る三輪車	鈴木哲也
	新米の親子丼九杯目	鈴木みのり
	金木犀まりがないからこのへんで	鈴木みのり
【佳作】	流れ星恥ばっかりを思い出す	鈴木みのり
【佳作】	襤褸市やぼろを出さずに二枚舌	高田敏男
	芋水車一皮剥けば国訛	高田敏男
	忘年会出世街道胡麻を擂り	高田敏男
	名月やヴェッキオ橋の賑はへる	高橋マキコ
	夜業明け我にご褒美コンビニで	高橋マキコ
【佳作】	ピサの斜塔斜め体験秋高し	高橋マキコ
【佳作】	あっちでもこっちでも女子会文化の日	高橋　都
	青空に高僧の顔花梨の実	高橋　都
	ガン保険みくらべてみる秋灯	高橋　都
【佳作】	姦しは文字通りなり鵙高音	高橋素子
	鍋奉行曇りガラスの眼鏡かけ	高橋素子
	おかめさんにつこり歩く大熊手	田中章子
	冬うすびほほえませたる鬼瓦	田中章子
【佳作】	さざんかの宿にあらず東慶寺	田中章子
	この雨の秋の深まりさせるなり	田中　勇
【佳作】	梨食うて口から出たる俳句あり	田中　勇
	鈴なりの柿や暗記ものに励む	田中　勇
【佳作】	家庭科の宿題母の夜なべかな	種谷良二
	園児らの顔より大き蕷を引く	種谷良二
	蓑虫の単身赴任楽しめり	種谷良二
【佳作】	烏瓜黒くならずに赤くなり	田村米生
	くじ引きで試飲をきめる茸汁	田村米生
	羽抜鶏を締めてもてなした戦後	土居忠行
【佳作】	着ぶくれて言い訳がましいハガキ書く	土居忠行
	文化の日修正液が切れている	土居忠行

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	聞き役になり鍋奉行仕る	飛田正勝
	父方の味にして飲む神の留守	飛田正勝
	呑むほどに酔ふほどに呑む年忘	永島董玉
【佳作】	おでん屋に苦の種を吐く泣上戸	永島董玉
	一杯のつもりの寝酒また注ぎて	永島董玉
	顎鬚を撫でて愁思と勘違い	西をさむ
【佳作】	賽銭の滅法減りぬ神無月	西をさむ
	七五三爺は指折り五七五	西をさむ
【佳作】	泣角力身を反つて泣き喚き勝	原田　曄
	泣角力途方に暮れて笑ひ負	原田　曄
	思はざるホットスポット穴惑	原田　曄
【佳作】	キタマクラてふ魚食べて北枕	ひがし愛
	伝統の団扇をめぐり内輪揉め	ひがし愛
【佳作】	ワシコフの影に怯える石榴の実	彦阪義久
	松茸を食べた記憶も古くなる	彦阪義久
	世界一長寿の国におでん有り	彦阪義久
【佳作】	死ぬ死ぬと命存へ穴まどひ	久松久子
	茸山の出口入口石仏	久松久子
	鵙鋭声発信基地の坐骨かな	久松久子
	きつぱりと引くなり立冬のルージュ	日根野聖子
	木枯やささくれし吾の耳を切る	日根野聖子
【佳作】	こたつひとつ足よつつ	日根野聖子
	年金を頼るが疎まし翁の忌	広瀬雅幸
【佳作】	裏側は真つ平らなり大熊手	広瀬雅幸
	気掛りの解け注ぎ合ふや十三夜	藤岡蒼樹
【佳作】	金木犀伸びる鼻毛の好好爺	藤岡蒼樹
	ちり紙の上の落葉にかくす糞	藤岡蒼樹
【佳作】	そろそろ恋しくなるセーターの胸	藤森荘吉
	人様の老いを見てゐて秋深む	藤森荘吉
【佳作】	押入の奥の奥にもひそむ秋	藤森荘吉

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	父母の忌に一族月の舟に乗り	藤原セツ子
【佳作】	「定命」と聞き軽くなり秋の空	藤原セツ子
	名月や酒で五臓六腑洗ふ	藤原セツ子
	悪者がすぐ改心し村芝居	前川敏夫
	天網もときにだらけて鰯雲	前川敏夫
【佳作】	人の目を盗む素早さ夜這星	前川敏夫
	ぶかぶかのズボン平成文化の日	前　九疑
【佳作】	文化鍋焦がして老いる文化の日	前　九疑
	伝来の猪口黴臭き文化の日	前　九疑
	冬集う往持神主尼神父	松尾軍治
【佳作】	妻の顔般若にかわる師走かな	松尾軍治
	よしなにと言われてみたし年の暮	松尾軍治
【佳作】	セシウムをたらひ回すや秋時雨	丸山紘一
	王朝の土管で果つる秋無常	丸山紘一
	当り過ぎサプライズ無き秋の空	丸山紘一
	廃坑の疼きはどこに紅葉山	三塚不二
【佳作】	新米の味に水さしセシウム値	三塚不二
	南天の実消え果てさせし下手人め	三塚不二
	天高しタクシー溜りは満タンに	三橋百笑
	等伯の載る新聞に薯もらふ	三橋百笑
【佳作】	泣く大将家来が背負い秋の山	三橋百笑
	鎖樋音無く伝ふ秋の雨	宮森　輝
	獏舎前からからからと落葉舞ふ	宮森　輝
【佳作】	向日葵の中の個性派そっぽ向く	宮森　輝
【佳作】	訳ありの林檎から売れ道の駅	村上美和
	神苑の掃き目きのこを除けてをり	村上美和
	藁塚や里に一つの診療所	村上美和
	一つづつ父が消へゆく十三夜	百千草
	秋の蚊の吾を離れぬあはれ哉	百千草
【佳作】	大くさめ百年の恋吹き飛ばす	百千草
	笑ひ声押し出してゐるすき間風	森岡香代子
【佳作】	休日の多くて忘れ勤労感謝の日	森岡香代子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	秋なれど皿にいちじク入れサクラ	森　要
【佳作】	できるなら俺もなりたや帰り花	森　要
	老い楽の恋片思い泣ける秋	森　要
	毒茸を知る婆怖し惚けをみせ	守屋八郎
【佳作】	冷まじや徘徊の父足達者	守屋八郎
	エコライフ小春の温もり石に座し	八木　健
【佳作】	国産の新米なるぞ湯気を立て	八木　健
	スピンとは錐もみのことスケーター	八木　健
	首傾ぐ吾と似たるや菊人形	八洲忙閑
	エコマラソン扮装けばけばハロウィン	八洲忙閑
【佳作】	短針と長針交はる夜長かな	八洲忙閑
【佳作】	スリッパの選り取り見取り温め酒	柳　紅生
	日向ぼこ孫をリモコン代はりとし	柳　紅生
	寒波来し物資運びはチャリンコで	柳澤京子
	よたよたと冬の蟷螂吾れのごと	柳澤京子
【佳作】	芸術の秋の一景小便小僧	柳澤京子
【佳作】	今昔結ぶ桔梗や源氏庭	山下正純
	秋水に夢物語り浮の橋	山下正純
	廬山寺の鐘楼守や実紫	山下正純
【佳作】	大阪のおばちやん一行紅葉狩	山本あかね
	巣の蜂の出払つてをり懸崖菊	山本あかね
	掃いたやうな雲のかたちの秋の空	山本けい子
【佳作】	コスモスや活性剤で首もたげ	山本けい子
	挽ぎたいな旧家の庭の柿の実を	山本けい子
【佳作】	ひよどりをあつかましいと利口だと	山本　賜
	ボタンのややこしいベビーの冬服	山本　賜
	茶の花の遊びごころや蕊ゆたか	山本　賜
【佳作】	短パンのぎりぎり狙ふ藪蚊どち	横山喜三郎
	招待をされて不機嫌敬老日	横山喜三郎
	若づくり下座に追はれ敬老日	横山喜三郎

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	カチカチと空に弾ける鵙の声	渡辺さだを
	あおむけに歯耳抜かれおり冬の鵙	渡辺さだを
【佳作】	冬帽子眉の白髪はかくれても	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。